（様式１）

学力向上のための重点プラン【小学校】

新宿区立落合第五小学校

■　学校の共通目標

授業づくり	重点	・個に応じた学習指導と評価を工夫・改善し基礎学力の定着を図る。 ・一人一人が考えをもてるような学習を展開し、考えを伝え合う工夫をし、思考力と表現力を高める。	中間評価	・担任と専科教員が連携し、教師全員で全校児童の一人一人の学力を向上させていけるように指導していく。また、授業中だけでなく、言葉遣いに留意し、教員の人権感覚を醸成していく。 ・教師同士がお互いの授業を見合い、授業の展開について学び合っている。学び合ったことを意識し、よりよい授業の構築に教師一人一人が引き続き努めていく。	最終評価	・児童一人一人の学力が向上し、できることや分かることが増えた。その結果、自らの考えを発表することに意欲を高める児童がよく見られるようになった。 ・児童の考えや意見を引き出すような発問が多くみられるようになった。そのため、児童が他者の考えを共有したり、共感したりする経験が増えた。
学級（教科）経営		・「分かる」喜びを実感させ、自ら学ぼうとする意欲が向上するよう、集団での指導（一斉指導やグループ学習）と個に応じた指導（個別指導）の工夫と充実を図る。		・個、ペア、小集団、全体と指導形態や学習形態を適宜工夫し、「分かる」「できる」喜びを児童が実感できるようにする。また、課題を吟味し、児童が主体的に学べるよう、工夫する。		・ペア、小集団での学習では、学び合いによる相互評価の態度が育ってきた。個別の支援を必要とする児童も、教師からの支援を活用できるようになり、着実に力を付けた児童が増えた。

■　学年の取組み内容

学年	教科	学習状況（10 月）	課　題（10 月）	改善に向けた取組 10 月）	最終評価（２月）
1	国語	学読み書きの個人差がかなり大きい。 学読書の好きな児童が多い。文字の習得にかなり差があり、読んでいる本の内容にも差が出ている。	・全ての平仮名を正しく読み書きすること。 ・「～は、～を、～へ」を正しく使うこと。 ・促音の「っ」を正しく使うこと。 ・要点をまとめて短く話すこと。	・朝学習のプリントや授業の始めの時間を使った繰り返しの言語の学習、小テストなどを繰り返し行う。 ・話型を使って発表させる。	・平仮名の読み書きは正しくできるようになった。 ・「～は、～を、～へ」を正しく使うこと、促音の「っ」を正しく使うことには定着に差があるため、引き続き指導を続ける必要がある。 ・話型を使ったことで要点をまとめて短く話すことができるようになってきた。また、友達の発表の良いところを手本にして発表できるようにもなってきた。
	算数	学計算の速さや正確さの差がかなり大きい。 学文章題で何を問われ、どう答えるべきかを考えることがむずかしい。	・一桁同士の計算に時間がかかること。 ・問題と絵や図、式、言葉を関連付けられないこと。	・計算カードなどを使って繰り返し練習させる。 ・具体物や半具体物を多く用い、実感を伴った問題解決を行う。	・ワークテストの結果、授業や家庭学習での反復練習により、８割の児童が繰り上がり・繰り下がりのある計算や３つの数の計算を正確にできるようになった。２割の児童は、時間がかかりすぎたり、計算ミスが多かったりするので、引き続き指導していく必要がある。 ・具体物や半具体物を用いたり、それを絵や図に表したりする学習を繰り返してきたことにより、問題と絵や図、式、言葉を関連付けて考えられる児童が増えた。

学年	教科	学習状況（４月）	課　題（４月）	改善に向けた取組（４月）	中間評価・追加する取組（10 月）	最終評価（２月）
2	国語	学　読書が好きな児童が多く、想像を広げながら読むことが得意である。しかし、叙述に即して正確に読むことは個人差が大きい。 学　漢字等の言語事項は、継続して練習に取り組める児童が多い。しかし、自分が書きたい文章に活用できる児童は少ない。	・「～が・は」などの主語を意識づけし、それが「どうした・どうなった」ということを一つ一つ捉えられるようにすること。心情を表す言葉や、状況を示す言葉を理解すること。 ・既習の漢字を正しく使えるようにすること。	・国語の教科書から分かる事実と状況から考えられる自分の解釈を捉えさせながら、叙述に即した読みができるようにする。 ・児童が読み間違い、書き間違いしやすい語句を整理し、授業や家庭学習で、意識化できるよう反復的に練習をさせていく。	・語彙が増え、キーワードから登場人物の心情を正確に捉えられるようになってきた。主語と述語の対応に苦手意識をもつ児童がいるので、述語の動作主等を明確にする活動を豊富に取り入れる。 ・２年生で習う漢字の読み書きで、児童が間違いやすい語句が把握できたので、反復練習で定着を図る。	・主語と述語を対応させ、ある程度の字数で文章を書くことに課題が残る。主語に対応する適切な述語を選んだり、つくったりする活動を今後も繰り返し取り入れていく。 ・１年生配当の漢字の書きと２年生配当の読みは区の学力調査の目標値に、概ね達している。今後は作文等、文章を書く学習においても既習漢字が活用できる児童が増えた。
	算数	学　新しい演算や筆算練習は好んで取り組む児童が多い。 学　文章題など、問われていることを理解し、立式することが苦手な児童が多い。 学　算数への興味・関心は高く、授業中はよく発言をする児童は多い。	・文章問題で題意を正確に読み取れない児童がいること。 ・筆算の手順は理解できているが、自分一人で行うと位をそろえ忘れる児童がいること。	・演算決定や立式などのプロセスにおいて、その流れが分かるようにフローチャート等を用いて示し、根拠をもって立式する習慣を付けさせる。 ・既習事項の確認を適宜取り入れながら、児童のつまずきを軽減する。また、間違い探し等の課題を取り入れ、正確な処理ができるようにする。	・根拠を述べながら、確実に演算を決定することを数多く経験したため、自信をもって立式する児童が増えた。今後はテープ図の活用等、児童が自ら問題場面の視覚化ができるよう指導していく。 ・繰り上がり、繰り下がり等の正確な処理が定着した児童が増えている。今後も、空位や連続の繰り下がり等、児童が間違いやすい問題を整理し、反復練習をする場を設ける。	・区の学力調査から、加法、減法、乗法の文章問題に関する正答率は概ね目標値に達しているが、乗数、被乗数を混同する児童がいる。問題場面の視覚化を今後も取り入れ理解を促す必要がある。 ・加法、減法の筆算は概ね目標値に達しているが、繰り上がり２回の加法では若干正答率が下回る。誤答の傾向に合わせた問題に取り組ませていく必要がある。
3	国語	調　目標値を８ポイント上回っているが言語事項の理解の観点が他の観点に比べるとやや低い傾向にある。 学　通常の授業では読み取る力に課題がある。	・「を」と「は」を正しく使うこと。 ・促音の「っ」を正しく使うこと。 ・既習の漢字を使い、文章を書くこと。 ・読み取る能力を高めること。	・板書を使ってわかりやすく解説する。 ・作文や日記の中で習った漢字を使うように添削をする。ひらがなばかりの文章と漢字を使った文章を見比べて、漢字を使うと文章が読みやすくなるということに気付かせる。 ・登場人物の心情や情景の様子にサイドラインを引かせ叙述に即して想像させたり、問いと答えの考えを常に意識させたりしながら確実に指導していく。	・日々の授業の中で、漢字を覚えられているかこまめにチェックしたり、書けるようになるまで何度も反復して練習をしたりすることで、漢字を覚え、使う力が付いてきた。 ・日記を書くこと、音読をすること、隙間の時間に読書をすることを習慣化することで様々な形態の文章に触れ、読み取る能力も付いてきた。自分の書いた文章を読み直し、修正する力も付けていきたい。	・３年生配当の漢字の読みは、区の学力調査の目標値に概ね達しているが、２年生配当の漢字を書いたり、作文を書いたりする力に課題がある。既習の漢字を使い、相手や目的を意識して文章を書くことを日常的に繰り返し取り組ませていく必要がある。 ・物語を読み取る能力はついてきている。引き続き、音読や読書を続けていく上で、わからない言葉や漢字に出会ったときには国語辞典で調べる習慣がつくように促す必要がある。

	算数	調 目標値にほぼ到達しているが表現力の観点では９ポイント下回っている。 学力の個人差が大きい。 学 計算より文章問題を苦手としている児童が多い。 正確に問題を解くことより早く問題を解くことに意識が向いている児童がいる。	・自分の考えたことを図や式、言葉で表現すること。 ・九九を素早く正確に言えるようにすること ・引き算の苦手意識を克服すること。 ・テストでの「数学的な考え方」の領域の点数が低い。	・自分の考えを表現できるように「文型」「話型」を提示する。 ・習熟に応じたグループ分けをし、きめ細やかに指導を行う。 ・朝学習に計算問題を時間の限りできるだけたくさんさせるようにし、既習内容の定着を図る。 ・正確に問題を解くことの大切さを説き、継続的に声かけをしていく。 ・問題を正確に読むことを伝える。授業中に文章問題を多く取り上げ、慣れさせる。	・習熟に応じたグループで学習することで、ゆっくりと考えていきたい児童も、集中して課題と向き合い、自分の考えを発言できるようになってきた。 ・答えを出すだけでなく、その理由を説明する力が確実についてきている。 ・九九を正確に覚えられていない児童も見られるので、授業のはじめや宿題等で繰り返し確認していく必要がある。	・九九の習熟に、全体でも個別でも繰り返し行ったことで、かけ算・わり算の内容は、区の学力調査でも目標値を上回り、定着が見られた。 ・文章問題を解いたり、式の説明をしたりする数学的な考え方を問われる分野では、まだ大きく課題が見られる。ただ、手順を覚えて計算するだけでなく、なぜそのような式になるのかを説明できる力を付けていく必要がある。 ・コンパスや定規の使い方に、課題が見られる。道具の正しい使い方を再度確認して、個別に指導をしていく必要がある。
4	国語	調 目標値を１５ポイント上回っているが、観点別に見ると要点を読み取り自分でまとめる力がやや低い。 学 学習習慣が定着していない児童がいる。	・要点を読み取り文章にすること。 ・基本的な学習内容を身に付けさせること。 ・既習の漢字を活用すること。	・まとめている言葉や文末表現などを意識させて要点をまとめさせるように指導する。 ・問いと答えを意識させながら読ませる。 ・児童一人一人のつまずきを把握するために週１回の漢字テストを行う。またつまずきが多かった箇所については学級全体で共有し、同じミスをしないように指導する。 ・授業等で習得した内容を活用させることに重点を置く。ノート、観察カード、ワークシート等で活用するように指導し活用させることにより言語事項を定着させる。	・文章のどこに注目するかを指導している。 ・問題をよく読むように指導している。 ・漢字テストの前日に家庭学習でテスト範囲を復習させ、まちがった漢字を正しくなおしてから取り組ませ、テスト後も間違った漢字を何度も練習させるようにした。	・問題をよく読むように指導した結果、テストにおいて簡単なミスや勘違いがなくなった。 ・漢字が依然として苦手な児童が多い。特に既習の漢字が書けないので、日常的に活用させ、活用している場面を見つけたら、全体でよい例として評価する指導を続ける必要がある。 ・授業で取り扱う説明文や感想文、要約の書き方は理解できているので、活用させ定着させる。
	算数	調 目標値を１４ポイント上回っている。観点別に見てもどの観点も１５ポイント以上上回っている。 学 学習に意欲的に取り組む。学習内容の定着に差がある 調査では正答率は平均を上回っているが、通常の学習の様子からは自分の考えを表現する力が弱い。	・課題と向き合い自力で解決しようとする意識を高めること。 ・図や式、言葉で表現する力を付けること。	・習熟度別授業ではどの児童でも自力で解決できるような課題を提示し「できた」「分かった」と実感できる授業を構築する。また学習意欲の高い児童には「もっとやりたい」という思いがもてる課題を工夫し提示する。 ・自分の思考を整理して書く「文型」や整理した内容を相手に伝えるための「話型」を提示し、どの児童も自力で思考・表現できるような支援をする。	・「できた」「分かった」と実感できる授業を引き続き構築する。「もっとやりたい」という思いがもてる課題を継続して提示するようにする。 ・「話型」を提示したら、どの児童も自力で思考・表現できるようになった。また、「話型」に頼らず、表現できた児童を取り上げ、全体で紹介するようにしている。	・区の学力調査では、図形の主に垂直や平行四辺形の作図につまずきがあると思われる。定規やコンパスの扱いについて、不器用で、慣れていない児童がいるので、機会を増やすように意識したい。 ・算数の授業自体は改善が見られ、課題と向き合い自力で解決し、話し合いを通して考えを深める姿が多く見られた。
	国語	調 目標値を１５ポイント上回っている。観点別に見てもどの観点も目標値を上回っているが、書く能力に関しては他の観点に比べて上回っているポイントが少ない。 学 「書くこと」の個人差が大きい。	・「書くこと」への抵抗感や苦手意識を減らすこと。 ・自分の考えや主張を分かりやすく伝える力を高めること。 ・要旨をまとめる力を高めること。	・一人一人が自分の考えをもって学習に臨めるよう、時間を十分に確保したり、ペアやグループでの教え合いや伝え合いを学習に取り入れたりする。 ・問いと答えの関係を意識させながら要点を確実にまとめ、要旨をとらえさせる。 ・書き出しや観点を提示したりして、「書くこと」への抵抗感を減らす。型を何種類か用意し、自分の能力に合ったレベルを選んで書けるように支援する。	・一人で考える→ペア、グループで考える→全体で交流するという学習の流れに慣れてきている。引き続きペアやグループでの活動を多く取り入れ、一人一人が表現できる機会を確保する。 ・教科書の説明文の学習を通して要点のまとめ方について学んだ。学んだことを生かせるような指導を行っていく。 ・型を何種類か用意することで、苦手な児童も書くことができたので、引き続き継続していく。	・区の学力調査では、書く領域の問題全６問のうち、３問が目標値を上回り、２問が目標値に近い正答率となった。目標値より低かった問題は自分の考えを表現する問題であった。 ・一定の文字数を書いたり、条件通りに書いたりすることはできてきている。一方自分の考えを表現するのが苦手な児童がいるので、課題に対して意見をもって書く機会を増やしていきたい。
5	算数	調 すべての観点で１０ポイント以上上回っている。 学 解き方の説明を苦手としている児童がいる。	・基本的な計算の仕方を理解し処理する力を付けさせること。 ・なぜそうなるのかということを図や言葉、絵などで表現させ、説明できる力を付けること。	・習熟度別授業の中で、繰り返し基礎的事項を定着させることはもちろん、算数的活動を取り入れ、具体物を操作したり、生活に密着した場面を課題にしたりして、一人一人が自分の考えをもって学習に参加できるようにする。 ・解き方、考え方をプロジェクターで前に映し、発表させる機会を設けることで児童にとってより深く、記憶に残るような授業にする。	・習熟度別の少人数を生かして、算数的活動を多く取り入れることができた。課題も生活に密着したものを設定することで意欲的に取り組んだ。 ・解き方、考え方を発表ノートを使って解き、画面に映しながら全体で交流した。交流が円滑に進む、児童の意欲が上がる等の成果が見られたので、引き続き学習内容に応じて使っていく。	・区の学力調査では、ほぼ全領域で目標値を上回った。数と計算領域では全問目標値を上回っていることから、基本的な計算力は身に付いていると考えられる。 ・表現する問題も２問とも目標値を上回っていることから、日頃の学習の積み重ねが結果として表れたと考えられる。引き続きＩＣＴを活用しながら、解き方、考え方を説明できる力を身に付けさせていく。

６	国語	調 目標値を１０ポイント上回っている。観点別にみると書くことの能力が他の観点より低い。 学 読む力・書く力・話す力・聞く力に関しては、個人差が大きい。	・目的意識や相手意識をもって文章を書くこと。 ・話をしっかりと聞こうとする意欲を高めること。 ・要点を押さえながら話を聞く力を高めること。 ・読む力を高めること。	・書く力を高めるために、定着度の高い児童に対して自分の書いた文章がよりよくなるための表現や書きぶりについて再度考える時間を取るようにする。定着がなされていない児童に対しては自分が伝えたいことが伝わるように、全体の構成を一緒に考える時間をとるようにする。 ・自分の考えをもたせるための活動を取り入れる。さらにペア学習やグループ学習の時間を取り入れ、自分の考えを分かりやすく表現する場を意図的に位置付け指導する。 ・話している内容のキーワードは何かを考えながら話を聞くよう指導する。 ・習熟度に応じた指導をしていく。読む力については、定着度の高い児童に対しては教科書教材以外の文章を積極的に読ませる。定着がなされていない児童に対しては文章を一緒に読み進めながらあらすじや要旨を一緒に考えていく時間をとる。	・書くことが苦手な児童については、全体の構成を一緒に考える時間等を取ることで、だんだんと書く力が付いてきた。今後は、自分で書き上げる力が付くように、１００文字作文等を行っていく。 ・ペア学習やグループ学習を取り入れることで、一人一人が表現する機会を確実に作ることができた。今後は、相手が表現したことにしっかりと反応していくことを指導し、協同的な学習ができるように指導していく。 ・要点を捉えながら聞く力については、年度当初の取り組みを今後も継続していく。 ・教科書以外の文章を積極的に読ませることで、様々なジャンルの文章に触れさせることができた。今後も継続していく。	・１００文字作文を行ったり、全体の構成を一緒に考える時間を取ったりすることで、文章を書く力が付いてきた。区の学力調査では、意見文を書く、自分の意見を明らかにして文章を書くという項目において、目標値を上回ることができた。 ・ペア学習やグループ学習を取り入れることで、一人一人が表現する機会を確実に作ることができた。話をしっかり聞こうとする態度を高めることができた。 ・読むことに関しては、区の学力調査で物語文、説明文とも目標値を上回ることができた。
	算数	調 目標値は８ポイント程度上回っている。領域別に見ると量と測定がやや低い傾向にある。 学 学力差が大きい。また、領域によって児童の得意・不得意が顕著に現れる。	・学力調査にも表れているよう、基本的な知識、技能は着実に身に付いている。 ・丁寧に学習に取り組むこと。	・児童がさらに算数に興味をもつような算数的事象を取り上げて紹介していく。 ・丁寧なノート指導と見直しを徹底させる。	・興味を引くような算数的事象を取り上げることで、学習内容にさらに興味をもち、取り組むことができた。 ・丁寧なノート指導と見直しを徹底させることで、自分の考えをより分かりやすく表現できるようになってきた。	・区の学力調査では、全体を通して目標値を４ポイント程度上回ることができた。、また、項目別では、図形領域は目標値を７ポイント上回り、数学的な考え方は目標値を６ポイント上回った。
	音楽	（低） ・声を出して歌うことを楽しんでできる児童と自信がなくてなかなか声が出せない児童が同じくらいいる。 ・鍵盤ハーモニカは、最初は意欲的に取り組もうとしていたが、指の動きや、リズムや音程がつかめずつまずいている児童もいる。 ・音楽の良さや特徴をつかむとき感じたことを発表したり、書いたりすることができない児童が多い。 ・めあてがわかると課題に前向きに取り組む児童が多い。 （中） ・柔らかい、美しい声で歌いたいと感じている子はとても多いがどうやったらできるか方法がわからず、意欲をなくしている児童もでてきている。 ・リコーダーや鍵盤ハーモニカに感心をもって上手になりたいという意欲をもって臨む児童は多い。 ・鑑賞では音楽の良さを感じたり、楽しんだりすることはできるが、言葉に表したり、体で感じたりする子は少ない。 （高） ・高学年になってもよく声を出して歌っている児童が多い。一方、変声期を迎え音程がつかめなかったりして声を出すことに意欲を失ってしまいそうな児童もでてきている。 ・楽器での合奏には意欲感心が高く、技能面でも伸びていて、楽しみながら演奏できる児童も増えている。 ・鑑賞では音楽の良さや特徴をつかんでいても発言が少なくなかなか皆で深め合えない。	（低） ・みんなの前でも間違えを気にせず声が出せるようになること。 ・自分がつまずいていることがわかり、教師や、友達に相談できること。 ・体でリズム感じて表現できること。 （中） ・いい声を出すための大切なこと（姿勢、呼吸、口のあけかた）を理解し、取り組むこと。 ・表情豊かな歌い方、表現まで確かめること。 ・曲を自分で吹いていける基礎的な力（楽譜を読む力、息の使い方、姿勢、運指など）を付けていくこと。 ・音楽の良さを見付けたり、感じたりする場面を多く作ること。 （高） ・歌う力のある児童に引っぱられて歌えるところから、自分からいい声をだしたいと一人一人が思って歌うところまで高めること。 ・リコーダーや鍵盤ハーモニカの基礎的な力（タンギング、呼吸法、姿勢、軽やかな指の動きなど）を付けること。 ・楽譜を読む力、階名唱できる力をもっと付け、自主的に練習が進められる力を付け、友達同士で合わせる楽しさを感じて取り組むところまで高めること。 ・素晴らしい音楽、いろいろな国の音楽などたくさん聴く場面を作ること。	・豊かな歌声の出し方、リコーダーや鍵盤ハーモニカの正しい吹き方、に必要なタンギングのつけ方、息の使い方、姿勢、呼吸の仕方などの基本的な力を学年に応じた目標を見極め、身に付けさせる。 ・仲間と声を合わせて合唱して美しいハーモニーを感じたり、音色を聴き合いながら合奏したりする経験を通じて音楽の楽しさを伝えられるようにする。 ・ペア、グループで練習したり、見合ったり、教え合ったりする場面を作って仲間とコミュニケーションを取る中で力を合わせてできた喜びを感じさせる。 ・鑑賞で、いろいろな音楽を聴かせ、美しい音色、歌声のイメージをつかませる。	・２学期からドラムサークルの活動を全学年取り入れ、打楽器に触れさせ音色の面白さ、リズムの面白さ、合わせることの心地よさなどを味わわせたいと考えた。 輪になってベースの音（拍）に合わせて、自由にリズムを刻んだり、友達の打つリズムをまねしたり、つなげたり、重ねたり、追いかけたりしながらみんなで音楽をつくっていくところまで中、高学年成長させていきたい。 ・学芸会での全校合唱の発表を目標に 低学年は回りの歌声を聴き合わせて歌えること、高学年の歌声の出し方をききあこがれをもたせたい。 中学年は二部合唱を体験し美しいハーモニーを響かせるための歌い方になれさせたい。 高学年が自分のパートの声を出しながら他のパートをききハーモニーの美しさを感じながらたのしみながら歌わせたい。 ・リコーダーや鍵盤ハーモニカを演奏するうえでの基礎的な力（姿勢、息の使い方、運指、タンギング）を高めながら、他の楽器と合わせる合奏を各学年で取り組んでいき、みんなで楽しく合わせるために大切なことを学ばせたい。（楽器の扱い方、音の出し方、回りの音を聴く心、話を聞く心など）	・歌唱面では卒業式に向けての合唱曲への取り組みの中で、低学年は音楽朝会などで高学年の歌声をきき、頭声の発声の仕方を意識して出そうとする児童が増えてきた。高い声を意欲的に出そうとしている子が多い中、高学年は響かせる美しい歌声で歌おうという意識はとてもある。変声期をむかえ声が今までのように、高い声が出しにくくなり、歌うことに前向きになれないでいる子に適切なアドバイスの必要性を強く感じている。（声域調査をし自分の声の声域の変化を教えると意欲的な姿勢が見られるようになった）。 ・器楽面ではどの学年も鍵盤ハーモニカやリコーダーで主旋律を吹いてから、他の楽器に挑戦させ合奏にもっていった。速さを合わせ、音色を合わせられるようになると、他の仲間の気持ちを思いやったり、教えたりできるようになってきている。 ・楽器の扱いかたや、よい音色を出すためにどのくらいの力で、どこの場所を打つなどは教える必要がある。

図工	・昨年度は授業や展覧会を通して、多くの児童が鑑賞カード（いいねカード）を何枚も書くことができていた。ただ、作品の見方が浅い児童もおり、鑑賞する様子には個人差がある。 ・課題に興味をもち生き生きと表現することができる。道具や材料の体験が少なく、自信をもって取り組めない児童もいる。 ・自分の思いや願いをもって表現できる児童がいる一方で、表し方に迷う児童の姿も見られる。	・一人一人がお互いの作品に興味をもち、よさや面白さを感じとったり、感じたことを伝え合ったりして、進んで鑑賞できる態度を育てること。 ・描画材や材料との関わりを通して「こうしたい」という思いをもつことができるようにすること。 ・表現の前の段階で一人一人がイメージを広げられるようにする。	・作品鑑賞を一学期に一度は行い、鑑賞カードの項目を工夫して、お互いの作品のよさや表現の工夫を認め合えるようにする。 ・様々な材料を体験させると同時に、児童の気付きをもとに試行錯誤のできる題材設定をする。 ・児童のイメージを把握するためのワークシートを用意するなどして一人一人を確実に見とることができるようにする。	・鑑賞カードに「作品について質問したいこと」を書く欄を設け、発表の際に意見の交流ができるようにする。 ・クラフト紙や自然の材料を扱った題材に取り組ませることができた。 ・児童にイメージをもたせるために、事前指導を含めた活動に入る前の「耕し」の指導を工夫する。	・鑑賞カードについての取り組みを進めることができなかったが、作品鑑賞をする時に、発問の工夫をすることで具体的に作品を見ていく指導を工夫することができた。 ・児童が何度でも試すことができる題材を工夫することで、発想や表現を引き出すことができるようにする。 ・今後も「アイデアスケッチ」や「振り返りカード」を書かせ、一人一人を確実に見とるようにする。